

## 2016 年度事業報告

本法人の定款第 3 条（目的）および第 5 条（事業）の定めと 2016 年度（以下、本年度という）総会で決定された事業計画に基づき、骨髄バンク事業の普及啓発とドナー募集活動の支援事業、血液疾患患者と家族への闘病支援事業、より良い骨髄バンクと造血細胞移植医療を求める活動などの事業を実施したので、その概要を報告します。

### はじめに

日本骨髄バンク事業は、1991 年 12 月設立から 25 年を迎える 2016 年 10 月に移植数は 2 万例に達し、2017 年 3 月には骨髄バンク (20,547 例) とさい帯血バンク (14,511 例) の合計移植数が 3 万例を突破しました。また、骨髄バンクの有効ドナー登録者数も 47 万人を超えました。こうした実績は、日本骨髄バンク関係者、さい帯血バンク関係者、日本赤十字社関係者、医療関係者、行政関係者などの尽力の賜物であり、全国のボランティア活動がその一翼を担ってきた成果であると思います。

本年度は、加盟団体による地方自治体への働きかけにより「ドナー助成制度」の新設が相次ぎ、実施主体が市町村に加えて都道府県にも広まるなど、全国的に普及啓発及びドナー登録活動の推進に大きく寄与したものであると思います。

### 法律施行から 3 年経過——見直しを求める活動

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行されて今年 1 月で 3 年が経過しました。法律の附則第 5 条には「施行後 3 年を経過した場合において、この法律の施行の状況等を勘案して必要があると認められるときは、検討が加えられ、その結果に基づいて必要な措置が講ぜられる」とされています。

昨年 5 月 28 日全国骨髄バンクボランティアの集いで、記念シンポジウムとして「法制化 3 年目～現状と課題」を開催しました。厚生労働省、日本骨髄バンク、日本赤十字社、専門医師などの関係者がパネリストとして参加され、全国協議会からは様々な提言を行い、関係者間で率直な意見交換と議論が行われました。主な論点としては、①ドナー登録募集活動への日本赤十字社の積極的な関与・事業主体としての位置づけ、②コーディネート期間短縮化の具体的施策、③骨髄バンクへの公的財政支援の拡充、④地方自治体が行っているドナー助成制度の普及、⑤業務効率化など事業全般に対する調査・評価機関の設置、⑥患者擁護のための必要な施策と支援機関の設置、などでした。

2017 年 3 月 16 日に開催された骨髄・さい帯血バンク議員連盟総会で、野田聖子会長は「法律施行から 3 年経ったので、事業の見直しを行い改善すべき点はより良くして行きたい」と明言されました。事業見直しや法律改正については、今後、加盟団体からの意見や議論を深めたいうで要望活動を行うとともに、社会運動として取り組

む必要があると思います。

## 患者支援の原点に立った骨髄バンクを求める活動

骨髄バンクの年間移植数は、3年前のピーク時から毎年減少傾向にあり100例以上減少しています。一方、さい帯血移植数は毎年増加し、昨年は骨髄バンクを約100例上回りました。懸案のコーディネート期間短縮化については、全国協議会は「初期検索ドナー数を5人から10人への拡大」「医師やドナーとの連絡はEメールの活用」「各コーディネート段階での事務処理の簡素化・迅速化」を具体的に提案しています。しかし、コーディネート期間の短縮化はなされず中央値は144日ほどです。

こうした中、日本骨髄バンクは移植数減少のため財政状況が悪化し、赤字額が増大しています。財政改善には、移植数の減少に歯止めをかけるとともに組織やシステムの効率化、サービス向上が求められています。収入を増やし支出を削減するためには不断の努力が必要です。それと同時に、患者・家族が安心して移植に臨めるよう、骨髄バンクの安定的な運営を確保するために、公的な財政支援の拡充が必要です。

「患者負担金の値上げ問題」では、骨髄・さい帯血バンク議員連盟の野田聖子会長の尽力と厚生労働省の理解により、値上げ案は当面見送りとされました。この問題では、2年前から全国協議会は、全国の加盟団体とともに反対を表明し粘り強く運動を行ってきました。今回の一件は、全国の仲間が連帯し社会運動を行う団体が必要であることの証左と思います。

## 財政危機を解決するための取り組み

全国協議会の財政は、3年前から繰越財源の枯渇に直面し、危機的状況に陥りました。それまでは毎年約2000万円にものぼる収支赤字は、繰越金で補てんして賄う状況でした。財政改善のために支出では、事業内容や管理費・人件費などを見直し大幅削減を行いました。収入では、賛助会員の募集と寄付金獲得に役員・理事会と事務局は、加盟団体の皆さまとともに組織の存亡をかけ、様々な取り組みを行ってきました。

そうした取り組みにより、一般事業会計費（事業活動に必要な資金。患者支援基金会計は除く）は、2014年は約1428万円の赤字、2015年度は628万円の赤字でしたが、本年度は167万円の赤字までに縮小することができました。しかし、財政状況は年度収支では黒字化しておらず、依然として非常に厳しい状態が続いています。

本年度は、従来からの寄付先への働きかけに加えて、賛助会員拡大に向けて強力的に取り組みを開始し、特に、全国の商工会議所の会員企業や医療学会員への働きかけを行いました。これからも、広く企業・団体に寄付要請、募金箱の設置などについて創意工夫をもって積極的に取り組んでいくことが必要です。今後とも、役員・理事会と事務局、全国の加盟団体がともに財政再建のために一致協力をお願いいたします。

### 1. 患者支援活動

### ① 「白血病フリーダイヤル」による相談活動

全国協議会の患者支援活動の原点である「白血病フリーダイヤル」による相談活動は、1996年7月の開設から2015年12月には累計の開催回数が1000回となり、2016年夏で20年を経過した。今年度の開催回数は51回、相談件数は301件で前年度より24件減少した。今後、フリーダイヤル相談活動の認知度を高めるためホームページの改善などPRに取り組む必要がある。その一方、ボランティア相談員の交代が懸案となったため、養成研修を行い2016年10月に2名を養成配置した。

白血病フリーダイヤル（患者相談受付）（累計 1,066回、7,801件）  
開催回数 51回（毎週土曜日）  
受付相談件数 301件  
相談員数 延べ148人（うち医師 延べ24人）

### ② ハンドブック「白血病と言われたら」の普及配布活動

「白血病と言われたら」は、改訂第5版を2014年6月に1万部発行。「疾患・治療」と「闘病支援編」の2分冊セット形式である。患者・家族への普及配布ばかりでなく、医学部学生や看護師養成学校でのテキストとしての活用を全国的に進めるなど、積極的な普及配布の取り組みが求められている。今後は、改訂版の発行準備とともに「電子書籍版」を図る必要がある。

ハンドブック「白血病と言われたら」（疾患・治療編、闘病支援編）  
配布部数 啓発用20セット、販売など318セット

### ③ 「佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金」

基金の枯渇により2014年10月から2年間申請受付を休止した。（過去3度目の休止）。再開要望が多く寄せられていたが、企業からの社会貢献の寄付支援などにより基金の積み増しとなり、2016年10月から申請受付を再開した。半年間の申請件数は13件、助成件数は4件であるが、今後、申請件数は増大が予測されるため、基金の増額活動が求められている。

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金 ※2016年10月より再開  
問い合わせ件数 49件  
申請件数 13件  
助成件数 4件、助成総額 524,880円  
（累計 助成件数 232件、助成総額 74,092,786円）

### ④ 「志村大輔基金」

分子標的薬に対する関心が高まり、助成件数は前年度の48件に対して、今年度は70件となった。精子保存の助成件数も前年度の10件に対して、今年度は18件と増加している。その一方で基金が枯渇する危機を迎えたが、企業からの社会貢献としての多額の寄付があり基金が確保できた。また、高額な分子標的治療薬が次々と開発されており、今後は社会的（公的）な支援制度の構築が求められている。

志村大輔基金  
問い合わせ件数 92件  
（問い合わせ内訳 分子標的薬 67件、精子保存 25件）  
申請件数 分子標的薬 65件、精子保存 18件

助成件数 分子標的薬 70 件、精子保存 18 件  
助成総額 分子標的薬 3,440,000 円、精子保存 927,094 円  
(累計 分子標的薬 助成件数 162 件、助成総額 8,620,000 円、  
精子保存 助成件数 31 件、助成総額 1,577,310 円)

#### ⑤ 「こうのとりのマリン基金」

卵子保存の助成件数は前年度の 4 件に対して、今年度は 8 件、前年度申請の無かった体外受精は今年度 1 件の助成を行った。基金が乏しくなっており、助成制限も考慮せざるを得ない状況にある。基金の積み増しが喫緊の課題となっている。

こうのとりのマリン基金  
問い合わせ件数 27 件  
申請件数 卵子保存 10 件、体外受精 1 件  
助成件数 卵子保存 8 件、体外受精 1 件  
助成総額 卵子保存 2,171,049 円、体外受精 300,000 円  
(累計 卵子保存 助成件数 17 件、助成総額 4,237,142 円  
体外受精 助成件数 2 件、助成総額 552,680 円)

#### ⑥ 患者サロン

血液疾患の患者さんや治療を経験した方に、外出や交流の機会をもってもらうため、かかりつけ・治療した病院を問わない患者サロンを 2013 年 10 月から 2 カ月毎に開催している。

開催回数 5 回 参加者 83 人 累計 18 回

#### ⑦ 軽作業ボランティア

造血細胞移植を受けた患者さんに、会報の発送作業など事務局の作業をお願いし、社会復帰の一環となるよう、毎月 1 回実施している。

開催回数 8 回 参加者 15 人参加

## 2. ドナー支援活動

加盟団体による地方自治体への働きかけにより「ドナー助成制度」の新設が相次いだ。実施主体が市町村に加えて都道府県にも広まるなど、全国的にドナーが提供しやすい環境づくりに寄与した。また、普及啓発及びドナー登録活動の推進に大きく貢献した。

全国協議会では「ドナーサポートダイヤル」による相談件数は前年度より減少し、冊子「ドナーになるってどんなこと？」の提供数は前年度を上回った。

#### ① ドナーサポートダイヤル（ドナー相談受付）

受付相談件数 12 件（うち電話受付 12 件）  
相談員数 相談員 2 人（随時受付）、事務局受付 2 人（常時受付）  
(累計 電話受付 1,175 件、メール受付 240 件 合計 1,415 件)

#### ② パンフレット「ドナーになるってどんなこと？」配布状況

本人編 3,800 冊  
家族・職場編 2,350 冊

## 3. 社会啓発活動

毎月「全国協議会ニュース」を定期発行し、ホームページの更新も適宜行った。Facebook（協議会そのものと志村大輔基金）も更新した。

全国協議会の主催行事として、「全国骨髄バンクボランティアの集い」を5月28日に東京で開催したほか、お正月恒例の「箱根駅伝の街頭啓発活動」を1月2～3日の両日にわたり東京～箱根間の沿道で、埼玉・千葉・東京の団体とともに実施した。その他イベントの共催を4件、協力を2件行った。

また、各地団体が開催する各種イベントについて名義後援（11件）を行った。各地で開催している「あやちゃんの贈り物展」、「MAMOのメッセージ展」、「患者とドナーのお手紙展」、「いのちの輝き展」への協力を行った。

さらに、中学生・高校生の研修受け入れや大学生のインターンシップ実習生の受け入れも行った。

### ① 機関紙の発行

全国協議会ニュース 第286～297号 毎月5,500部発行×12回（毎月1日）  
全国協議会ニュースはPDF版をホームページ上で公開している。

### ② 主催事業

開催期間		内容	開催場所
2016年	5月28日	2016全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京	日本赤十字社本社会議室
2017年	1月2日 ～3日	箱根駅伝での啓発活動	東京都および神奈川県内各所

箱根駅伝での啓発活動では、プルデンシャル生命保険株式会社の全面支援を受けており、社員と家族が沿道の応援に駆けつけ、参加者数に応じた寄付を受け、佐藤きち子記念基金に繰り入れている。

### ③ 共催事業

開催期間	事業名	開催場所	主催
2016年	9月17日 ～18日	第25回全国移植者スポーツ大会	兵庫県 神戸市 NPO 日本移植者スポーツ協会
	11月19日	骨髄バンクチャリティーコンサートと落語会	千葉県 成田市 千葉骨髄バンク推進連絡会
	11月26日	第21回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」	青森県 十和田市 第21回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」実行委員会
	12月17日	骨髄バンクチャリティクリスマスコンサート2016	兵庫県 姫路市 姫路地区骨髄バンク推進センター

### ④ 協力事業

開催期間	事業名・内容	主催
2016年	10月10日	2016グリーンリボンランニングフェスティバル NPO法人日本移植者協議会ほか
	11月3日	としまふれあいバザール 豊島区明るい社会づくりの会

### ⑤ 名義後援事業

開催期間		事業名	開催場所	主催
2016年	4月9日	第24回 骨髄バンクチャリティーコンサート「円覚寺ピアノ三重奏の夕べ」	神奈川県鎌倉市	神奈川県骨髄移植を考える会
	8月28日	「骨髄バンクチャリティー麻雀大会2016in東京」	東京都港区	非営利団体ニューロン本部
	9月17日	「骨髄バンク設立25周年記念全国大会」	神奈川県横浜市	公益財団法人日本骨髄バンク
	10月10日	骨髄バンク普及啓発イベント～みんなで骨髄バンクを考えよう～	愛知県名古屋市	あいち骨髄バンクを支援する会
	10月23日	しまねまごころバンク映画上映会	島根県浜田市	しまねまごころバンク
	11月12日～13日	SNOW BANK PAY IT FORWARD2016	東京都渋谷区	一般社団法人 SNOW BANK
	11月13日	ピアノ三重奏「バラのかおりのコンサート」	東京都港区	骨髄バンクを支援する東京の会
2017年	1月28日	骨髄バンク支援チャリティー「愛のコンサート」in奄美	鹿児島県奄美市	かごしま骨髄バンク推進連絡会議
	3月12日	「骨髄バンクチャリティー麻雀大会2017in大阪」	大阪府大阪市	骨髄バンクチャリティー麻雀大会2017in大阪 実行委員会
	3月29日～	専門医による動画で学ぶ「もっと知ってほしい造血幹細胞移植のこと」	ウェブ	特定非営利活動法人がんサーネットジャパン
	3月29日～	専門医による動画で学ぶ「もっと知ってほしい多発性骨髄腫のこと」	ウェブ	特定非営利活動法人がんサーネットジャパン

## ⑥ 展示会

### あやちゃんの贈り物展

開催期間		開催場所		入場者数	主催
2016年	6月11日～19日	宮城県石巻市	イオンモール石巻 (患者とドナーのお手紙展・わたしががんばったよ展同時開催)	15,000	石巻骨髄バンクの会

計1カ所 累計開催数 279回

### MAMOのメッセージ展

開催期間		開催場所		入場者数	主催
2016年	5月20日～29日	埼玉県越谷市	イオンレイクタウン越谷 (お手紙展同時開催)	2,000	埼玉骨髄バンク推進連絡会
	7月9日～22日	山形県西村山郡	山形県立谷地高等学校	500	骨髄バンクを支援するやまがたの会
	8月26日～29日	山形県天童市	イオンモール天童	店舗にいらした方	骨髄バンクを支援するやまがたの会
2016年	10月3日～14日	山形県山形市	イオン山形南店/だがし夢や	店舗にいらした方	骨髄バンクを支援するやまがたの会

2017年	2月14日 ～19日	山形県 山形市	山形市立第三中学校	216	骨髄バンクを支援するやまがたの会
-------	---------------	------------	-----------	-----	------------------

計5カ所 累計開催数 133回

**患者とドナーのお手紙展** 2004年9月から事業開始

開催期間		開催場所		入場者数	主催
2016年	5月20日 ～29日	埼玉県 越谷市	イオンレイクタウン越谷 (MAMO展同時開催)	2,000	埼玉骨髄バンク推進連絡会
	6月11日 ～19日	宮城県 石巻市	イオンモール石巻 (あやちゃんの贈り物展・わたしががんばったよ展同時開催)	15,000	石巻骨髄バンクの会
	9月27日	北海道 札幌市	札幌市役所 (わたしががんばったよ同時開催)	150	北海道骨髄バンク推進協会
	10月3日 ～5日	北海道 札幌市	北海道庁 (わたしががんばったよ同時開催)	200	北海道骨髄バンク推進協会

計4カ所 累計開催数 47回

**著名人のメッセージ展** 2006年6月から事業開始

開催期間	開催場所	入場者数	主催
今年度の開催なし			

累計開催数 25回

**いのちの輝き展** 2006年6月から事業開始

開催期間		開催場所		入場者数	主催
2016年	10月7日 ～8日	石川県 金沢市	金沢市文化ホールギャラリー (わたしががんばったよ展同時開催)	70	いしかわ骨髄バンク推進・はとの会
	10月13日 ～24日	千葉県 浦安市	浦安市役所 市民ホール	1,500	千葉骨髄バンク推進連絡会
2017年	1月21日 ～22日	北海道 釧路市	イオン釧路昭和SC	50	釧路骨髄バンク推進協会

計3カ所 累計開催数 108回

**いのちの輝きコンクール受賞作品展** 2006年10月から事業開始

開催期間	開催場所	入場	主催
今年度の開催なし			

累計開催数 15回

**わたしががんばったよ展** 2012年11月から事業開始

開催期間	開催場所	入場者数	主催
------	------	------	----

2016年	6月11日 ～19日	宮城県 石巻市	イオンモール石巻 (あやちゃんの贈り物 展・患者とドナーのお 手紙展同時開催)	15,000	石巻骨髄バンクの会
	9月27日	北海道 札幌市	札幌市役所 (お手紙展同時開催)	150	北海道骨髄バンク推進協会
	10月3日 ～5日	北海道 札幌市	北海道庁 (お手紙展同時開催)	200	北海道骨髄バンク推進協会
	10月7日 ～8日	石川県 金沢市	金沢市文化ホールギャラ リー(輝き展同時開催)	70	いしかわ骨髄バンク推進・はとの会

計4カ所 累計開催数 16回

⑦ 学生の学習・研修

2016年8月3日～9日 大妻女子大学短期大学インターンシップ実習生1人対応  
 2016年11月2日 都立江東商業高等学校 資料提供・研修学習対応  
 2016年11月18日 中野区立中野中学校 資料提供・研修学習対応

⑧ その他 寄付贈呈式

開催期間	内 容	主催者・事業名等	
2016年	4月12日	寄付贈呈式(辻枝雄理事)	いっぴか雛のまつり
	6月19日	寄付贈呈式(村上忠雄副理事長)	ゴールドジム スクール発表会
	10月1日	寄付贈呈式(辻枝雄理事)	NPO法人 サカエ会
	12月8日	寄付贈呈式(辻枝雄理事)	株式会社ハローデイ
2017年	2月5日	寄付贈呈式(村上忠雄副理事長)	ゴールドジム スクール発表会
	2月16日	寄付贈呈式(大谷貴子顧問)	プルデンシャル生命保険(株)
	2月19日	寄付贈呈式(山村詔一郎理事)	ゴールドジム スクール発表会

4. 普及啓発グッズの作成、普及配布

新規作成はハローキティポケットティッシュだけであったが、クリアファイル、うちわなどの普及啓発グッズを加盟団体および各地方自治体に普及配布した。

① グッズの作成と活用

グッズ名	配布先	作成時期	
ハローキティ横断幕	加盟団体を介して配布	1枚	—
	地方自治体などへの配布	1枚	
ハローキティポケットティッシュ	加盟団体を介して配布	183,000個	220,000個
	地方自治体などへの配布	52,126個	
ハローキティクリアファイル	加盟団体を介して配布	460枚	—
	地方自治体などへの配布	1,045枚	

ハローキティバンダナ	加盟団体を介して配布 地方自治体などへの配布	120枚 261枚	—	—
ハローキティのぼり	加盟団体を介して配布 地方自治体などへの配布	4枚 14枚	—	—
ハローキティうちわ	加盟団体を介して配布 地方自治体などへの配布	1,610枚 719枚	—	—

## 5. 要望・請願活動

患者負担金値上げ案に対する反対運動を 2015 年度から引き続き展開した。その結果、骨髄・さい帯血議員連盟の尽力と厚生労働省の理解により、値上げは当面見送りとなった。全国の仲間とともに 2 年間にわたり反対運動を続けた成果と考える。

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」は、2014 年 1 月 1 日に施行されたが、法律附則に「3年後の見直し」条項があり、記念シンポジウム開催や機関紙で「患者救命・移植成績向上のためにコーディネート期間短縮化の必要性と具体策、移植数を増加させるための事業効率化、財政対策」、「ドナー登録拡大対策、日本赤十字社血液センターによる献血者へのドナー募集の呼びかけ」などを提起した。より良い骨髄バンク事業とするよう、次年度は具体的な提言活動とともに、事業の見直しや法律の見直し議論を進めて行くことが課題となっている。

## 6. シンポジウム・セミナー事業

2016 年 5 月 28 日（土）に全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京の記念シンポジウム『「造血細胞バンク事業・法制化 3 年目」～現状と課題～』を開催した。全国各地からボランティアをはじめ約 100 人が参加した。

ブロックセミナーは、地元の団体が主幹団体として協力して開催され、全国協議会の状況報告と法律の見直しやドナー登録推進（若年層の対策）の議論、各団体間の情報交換などを行った。

開催期間		シンポジウム・セミナー	主催・協力等団体
2016年	5月28日	造血細胞バンク事業・法制化 3 年目～現状と課題～	全国骨髄バンク推進連絡協議会
2017年	2月12日	東海北陸ブロックセミナー（6 団体 26 人参加）	あいち骨髄バンクを支援する会
	3月4日	中四国地区ブロックセミナー（5 団体 14 人参加）	骨髄バンクを支援する山口の会
	3月4日 ～5日	東北ブロックセミナー（6 団体 31 人参加）	骨髄バンクを支援するやまがたの会
	3月11日	北海道ブロックセミナー（3 団体 28 人参加）	北海道骨髄バンク推進協会
	3月18日	関東甲信越地区ブロックセミナー（5 団体 20 参加）	埼玉骨髄バンク推進連絡会

## 7. 調査・研究事業

### ① 造血細胞移植学会への参加

情報収集と活動発表のため2017年3月2～4日 第39回日本造血細胞移植学会総会（松江市）へ参加し、ポスター展示発表するとともに、PRコーナーを設置し啓発活動を行った。

## ② 国際協力

### WBMTとパートナーシップ

世界保健機関（WHO）の公認 NGO である世界造血細胞移植ネットワーク＝WBMT（Worldwide Network for Blood & Marrow Transplantation）と全国協議会がパートナーシップを提携（2014年4月）した。また、WBMTの中に新たに設置された「患者擁護委員会」のアジア太平洋地区委員に全国協議会の野村正満理事長が選出されている。今年度は3月26日フランス・マルセイユで患者擁護委員会が開催されたが参加できなかった。

## ③ 講演会参加

2017年1月8日 平成28年度厚生労働科学研究「造血細胞移植研究合同公開シンポジウム」に参加

## 8. 骨髄バンク事業・さい帯血バンク事業、献血事業との連携

関係機関からの要請により、役員・委員等を派遣し、患者とドナー・ボランティアの視点から意見表明を行った。

### ① 役員・委員の派遣

日本骨髄バンクの評議員（大谷貴子顧問）

日本骨髄バンクのアドバイザーボードメンバー（菅早苗副理事長）

日本赤十字社の造血幹細胞事業検討委員（野村正満理事長）

### ② 日本骨髄バンク 理事会・評議員会・業務執行会議等の出席、傍聴

2016年4月～2017年3月 理事会 傍聴 3回

2016年4月～2017年3月 評議員会 出席1回 傍聴 1回

2016年4月～2017年3月 業務執行会議 傍聴 8回

### ③ 日本赤十字社の造血幹細胞事業検討委員会の参加

2017年2月3日 第2回造血幹細胞事業検討委員会 出席

### ④ 日本赤十字社 造血幹細胞事業広報作業部会の参加

2016年5月19日、2017年2月24日 参加2回

## 9. ボランティア団体との連携、加盟団体の退会・休会

加盟団体や協力団体からの要望に応え、情報提供などの連携協力を行った。年度末における加盟団体数は37団体（休会中4団体）で、今年度中に退会届出が2団体、休会届出が1団体あった。

## 10. 若手医療従事者支援

若手医療従事者育成を目的とし、海外学術集会への渡航航空券提供事業（デルタ航空マイレージを利用）を2014年度より行っている。今年度の申請は無かった。

## 11. その他、組織運営のための会議開催

総	会	2016年5月29日（日）	1回開催	日本赤十字社本社会議室			
理	事	会	2016年4月17日（日）、7月10日（日）、10月16日（日）、 2017年1月15日（日）	4回開催 全国協議会事務所			
代	表	者	会	議	2017年5月29日（日）	1回開催	日本赤十字社本社会議室